

順位	氏名（議席）	発言の要旨
4	望月 徹（11）	<p>1. 認知症に対するさらなる対策を</p> <p>本市は、認知症の人への対策として、相談窓口の開設、認知症カフェ、認知症サポーター養成講座、認知症に関するパンフレットの配布、認知症徘徊高齢者探索事業としてのGPS機器貸与、安心おかえり事業として事前登録受付と安心おかえりシール交付などを実施しています。</p> <p>また、食生活においても、高齢者のフレイル予防として、栄養満点教室など健康長寿に向けた取組を実施しています。</p> <p>団塊の世代が6年後には85歳になってきます。人口の多い世代ですから、必然的に、認知症にかかる人も増えてくることが予想されます。大きなテーマですので、一端の徘徊についての対策と、これまで不治の病と考えられてきましたが、「予防・改善可能な病気」と言われるようになってきた取組について、以下、質問いたします。</p> <p>(1) 本市は、安心おかえり事業として、安心おかえりシールを事前登録者に無償で交付しています。犯罪被害防止や利便性向上の観点から、改善する余地があると思うが、当局の見解をお伺いします。</p> <p>(2) 認知症は20年以上もかけて無症状のまま進行していると言われていいます。軽度認知障害から重度になっていきます。生活習慣改善の取組で、予防につながり、一度低下した認知機能の改善が図れると言われるようになりました。生活習慣改善は、今までも言われ、実施してきたことですが、新しいアプローチと周知徹底を図ることで、予防と維持につながると考えるが、当局の見解をお伺いします。</p> <p>2. 料金改定でも追いつかない上下水道のインフラ整備について</p> <p>本市は、上下水道事業の経営改善に向け、多くの取組を実施してきました。しかし、物価高への対応も含め、4年に一度のペースで料金改定を実施しており、現在も、次回の料金改定に向け、富士市水道事業及び公共下水道事業経営審議会に改定案を諮問しています。</p> <p>能登半島地震による長期断水、八潮市の道路陥没事故は、管路施設の老朽化や非耐震化が主な要因とされています。</p> <p>本市の水道事業で重要配水池や取水拠点に送水している管路及び重要施設へ配水している管路も含めて口径75ミリメートル以上の管路は、令和7年3月末現在、1091.1キロメートルあります。この管路の非耐震化率は61%で老朽化も急速に進行していきます。</p> <p>公共下水道事業においても、下水道管路が令和6年3月末現在約940キロメートルあります。50年以上経過している管路延長は少ないですが、これから急増していきます。料金改定を含め、現状の推進ペースでは、災害時を含め対応困難な状況に陥ることを懸念し、以下、質問いたします。</p> <p>(1) 水道事業は、これから、料金改定を含め、口径75ミリメートル以上の老朽化した管路の更新、耐震化を促進する予定です。年約8キロメートルの管路健全化の計画に要する費用が約20億円とされています。この計画を進めていくと、1091.1キロメートル全ての管路が終了するには、約80年の期間がかかると推測します。地盤が良好な地域もあり、経過年数に対し良好な状態を保っている管路もあると聞いています。しかし、布設されている水道管は、口径75ミリメートル未満のものもあり、こちらにも、健全化の促進が求められています。災害に対する強い備えがこの計画のペースで取れていくと考えているのか、当局の見解をお伺いします。</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
4	望月 徹（11）	<p>(2) 公共下水道事業においても、平成9年（1997年）以前布設の非耐震化管路が令和6年（2024年）3月末現在391キロメートルあります。この耐震化を完了するには、料金改定を含め、毎年5キロメートル実施したとして、78年の期間が必要となります。マンホールの耐震化を優先させる必要もある中で、災害に対する強い備えが取れていくと考えているのか、当局の見解をお伺いします。</p> <p>(3) 市民にとって一番重要なライフラインです。口径75ミリメートル以上の水道管で80年かかる計画や下水道管路の耐震化の計画では、災害に備える期間が長過ぎます。市民生活の安心度を高めるには、本市の一般会計予算からのさらなる歳出を検討すべきと考えるが、当局の見解をお伺いします。</p>